

平成22年度事務事業評価シート(平成21年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	10	項	05	目	02
事務事業名	放課後子ども教室推進事業								
担当部署	教育委員会生涯学習課	2203000	電話	0187-63-1111			内線	339	

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	02:未来を創り心豊かな人を育むまちづくり
	施策の大綱	01:学校教育の充実
	施策	01:学校教育の充実
	施策の内容	03:児童生徒の課外活動や校外活動の充実
根拠法令等		

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	放課後や週末に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な子どもの活動拠点を設け、地域住民の協力を得ながら体験活動を行うことにより、多彩な人々との交流を図るとともに、心豊かですこやかに育まれる環境を目指す。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	市内小学生
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	芸術体験、国際理解、野外宿泊体験、工作体験、伝統文化理解、異年齢世代との交流 ① わくわくスペースの実施 昔語り・紙芝居・朗読・読み聞かせなど ② わくわく体験活動の実施 長期休業中の体験活動(キャンプなど)
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	多彩な体験活動と地域住民との関わりの中で、仲間と協力する事の大切さや、思いやりの心を育てる。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① わくわくスペース実施校	校	18	23	24
	② わくわく体験活動回数	回	15	14	25
	③ わくわくランド箇所数	箇所	2	2	2
成果 (事業の成果を測る)	① わくわくスペース参加人数	人	3,335	3,350	3,650
	② わくわく体験活動参加人数	人	585	608	1,100
	③ わくわくランド参加人数	人	5,923	6,000	4,950
投入コスト	決算額		3,119千円	3,051千円	2,668千円
		一般財源	1,119千円	1,051千円	939千円
	人件費		4,462千円	4,462千円	1,589千円
		一般職員の年間従事人数	0.6人	0.6人	0.2人
		一般職員以外の年間従事人数	0.1人	0.1人	0.1人
	総コスト	(決算額+人件費)	7,581千円	7,513千円	4,257千円

事業を取り巻く環境	文科省、秋田県の補助事業である。補助率は、国・県・市三分の一ずつ。
-----------	-----------------------------------

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 事業の目的を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	文科省の重点施策であり、市が窓口となって対応している。 子どもを取り巻く環境は常に変化しており、子どもが安全に多彩な体験を行えることを望む保護者は増加しており、事業の継続が望まれている。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	B
	評価の理由	「わくわくスペース」の実施校数、「わくわく体験活動」への参加者数ともに増加しており、成果は順調に上がっている。 多彩な体験活動を行えるように、毎年度事業内容の見直しを図っている。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	B
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	小学校の教室で実施するという業務の制約上、一箇所に複数校の児童を集めて行うといったような効率的なやりかたは困難ではあるが、同様に余裕教室を活用して実施している「放課後児童クラブ」との連携に見直しの余地がある。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)	
改善	A 現状のまま継続	国庫補助事業に対応した事業であるが、毎年、予算削減の方向にあることから、実施している事業の取捨選択が必要になっている。 今後は、放課後児童クラブの児童に対しても支援を行って行く必要がある。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	